

< 絵画の部 >

(県指定文化財を重要文化財に)

くらべうまず
競馬図

6曲1双

【所有者】 宗教法人春日大社
奈良市春日野町160

【法 量】 (各) 縦167.8cm 横311.0cm (上部補紙を含む)

【時 代】 室町時代

端正な描線と美しい彩色で貴人邸での競馬行事を描く。料紙に雲母を塗布し、その輝きを基調に金銀で加飾するという、室町時代特有の装飾技法を示す佳品である。江戸時代に奈良で古作として大いに参照された屏風との関連性を想定できる。競馬は古くは宮中の恒例行事で、その会場を上賀茂社に移して今に伝わるのが賀茂競馬である。絵画化されたのも賀茂競馬が大多数を占めるが、貴人邸での競馬もまれに描かれた。現存する屏風絵としては唯一中世にさかのぼり、貴人邸での競馬を描く本作は研究上重要な位置を占める。ほとんどが景物画である中世やまと絵屏風の稀少な現存作例中であって、本作は人物を比較的大きく表す点でひとときわ珍しく、競馬図屏風の現存最古例として高く評価される。



画像提供：なら歴史芸術文化村

<考古資料の部>

(有形文化財を重要文化財に)

どうこつぞうき
銅骨蔵器

1口

唐招提寺律法再興第二和尚證玄圓律上人
正應五年八月十四日入滅の銘がある

いしびつ
石櫃

1合

いしうす
石臼

1箇

附 梵字骨

唐招提寺西方院五輪塔納置

【所有者】宗教法人西方院

奈良市五条2-9-6

【法量】銅骨蔵器 総高33.8cm 径16.8cm

【時代】鎌倉時代・正応5年(1292)

覺盛上人の跡を継いで唐招提寺中興2世となった證玄しょうげん(1220~1292)の遺骨を納めた骨蔵器と、外容器の石櫃、蓋として用いられた石臼からなる。これらは昭和44年(1969)の五輪塔解体修理時に発見され、平成30年(2018)の再修理時に取り上げられた。なお、證玄本人の遺骨は同地に再埋葬されている。

骨蔵器は、円筒形の本体に大ぶりの宝珠をのせた蓋をもち、側面に證玄の出身や没年、入滅時の年齢などが刻まれた額縁付きの銘板を鋳で取り付け。蓋は二段構造で、上段が取り外せる特異なものである。こうした蓋の構造や銘板の取り付け方は、同時代の骨蔵器の中でも特異である。骨蔵器内には、梵字骨六片をはじめとした、弟子とみられる二人程の遺骨が追葬されており、律宗における師弟のつながりの深さをうかがわせる。

銘文によって被葬者と没年代が明確な上、他に例をみない構造の骨蔵器であり、鎌倉期における律宗高僧の葬法を明らかにする資料として学術的価値が高い。



画像提供：奈良国立博物館